

「和の音色の愉しみ」

普段あまり耳にする事がなくなってしまった和の音色。この機会にふれてみませんか。古典曲から今年作曲された新曲など様々なジャンルの邦楽曲を一度にお楽しみ頂けます。是非お越し下さいませ。

▼山田流箏曲『新潮』

今回演奏致します曲は第三部合奏歌曲として作曲されたもので、第1箏（高音）、第2箏（中音）、十七絃（低音）という華やかな編成となっております。箏を器楽的に活躍させており、静かな歌と激しい間奏の絶え間ない交替によって、曲想の変化を見せながら、島崎藤村詩集「夏草」中の詩「新潮」の一部を歌詞として、夜の渦潮、星の輝き、潮を照らすかがり火、速い夜の波の流れなどが印象的に表現されています。

▼創作曲『三番ジャ音色』

日本の音楽、長唄には「三番叟物」と呼ばれる曲が数多くあります。私が大学で巡りあった、ブラジル音楽「サンバ」。「三番叟」と「サンバ」。その言葉の共通点と、演奏も打楽器という同じジャンルである事から、何か面白いことができるのでは…と思った事が、作曲のきっかけです。三番叟～サンバのリズムへの変化、囃子の楽器による音の響き、踊りたくするような高揚感をお楽しみいただけたら嬉しいです。

▼生田流箏曲『編曲さらし風手事』

古典曲「さらし」に現れる「さらしの手」と呼ばれる旋律は、地唄のみならず長唄など他ジャンルの楽曲にも広く引用されています。原曲となる「さらし風手事」は、宮城道雄がこの旋律をモチーフに作曲した箏二重奏曲で、その華やかな雰囲気から、宮城道雄作品の中でも好んで演奏される作品の一つとなっています。1993年、宮城喜代子が牧野由多可に編曲を依頼し、従来の箏二パートに三絃、十七絃を加えた合奏曲へと生まれ変わりました。

▼尺八『二本の尺八のための冥加』

人間のまことの富はこの世で行う善事である。…云々の格言のあるごとく、善行の報いとして知らず知らずの間に恩恵を享受している、誰もそれは、それぞれの道徳意識の元に善悪無記をし、心の葛藤を経て勝ち得るものと言えよう。

誰も無縁とは言い切れない心の迷いから脱出、喜びを勝ち得るまでの心の様を音にして現してみたのがこの曲であり、神仏の加護を蒙ると言う意味を以て「冥加」と題してみた。（作者・山本邦山の解説より引用）

▼能楽《独鼓》『枕慈童』

漢皇帝の臣下が勅命で南陽酈縣山から流れ出る薬の源を訪ねて山に入ると、庵の中に一人の童子がいて、自分は慈童というものでかつて君の御枕を超えた罪によりこの所に流されたが、君から賜った御枕に記された妙文を、菊の葉にうつして水に浮かべると、それが薬の水となって八百歳の寿を保ったと語り、その御枕を示し、また舞樂を奏して勅使を慰め、玉の甕に薬の水を汲んで皇帝に捧げました。

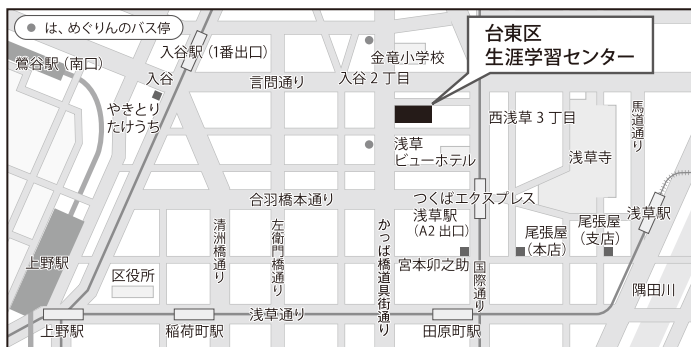
独鼓とは、謡一人、鼓（今回は太鼓）一人で常の手配りのまま一曲の一部を演奏することです。

▼長唄『助六』

天保10年（1839年）櫻田治助作詞、十代目杵屋六左衛門作曲。歌詞、作曲は歌舞伎十八番、「助六由縁江戸桜」の河東節から取材したものです。

天保10年3月中村屋初演の八変化舞踊の一曲として初演されました。

生涯学習センターまでの案内図



台東区生涯学習センター 〒111-8621 東京都台東区西浅草3-25-16 電話：03(5246)5827
交通 ◇ JR山手線・京浜東北線「鶯谷駅」南口 徒歩 約15分
◇ 地下鉄日比谷線「入谷駅」1番出口 徒歩 約8分
◇ つくばエクスプレス「浅草駅」A2出口 徒歩 約6分
◇ 台東区循環バス「めぐりん」「生涯学習センター南」「生涯学習センター北」ともに 徒歩 約3分



囃子が誘う、
幽玄の世界

この国の佳き伝統とともに
宮本卯之助

株式会社 宮本卯之助商店 創業文久元年 太鼓・神輿・祭礼具 製造販売
www.miyamoto-unosuke.co.jp

雷門通り
そば處

産張屋

本店
TEL (3845) 4500

支店
TEL (3841) 8780
<http://r.gnavi.co.jp/g615000/>

答

やきとり たけうち

昭和三十八年創業

〒104-0004 東京都台東区下谷1-11-7 入谷鬼子母神並び
TEL/FAX.03-3841-2450